



在留外国人の 人間関係と リスク回避





Agenda

1. 研究の背景、課題の設定

2. データ・サンプルの特性

3. 分析結果

4. まとめ・考察

Agenda

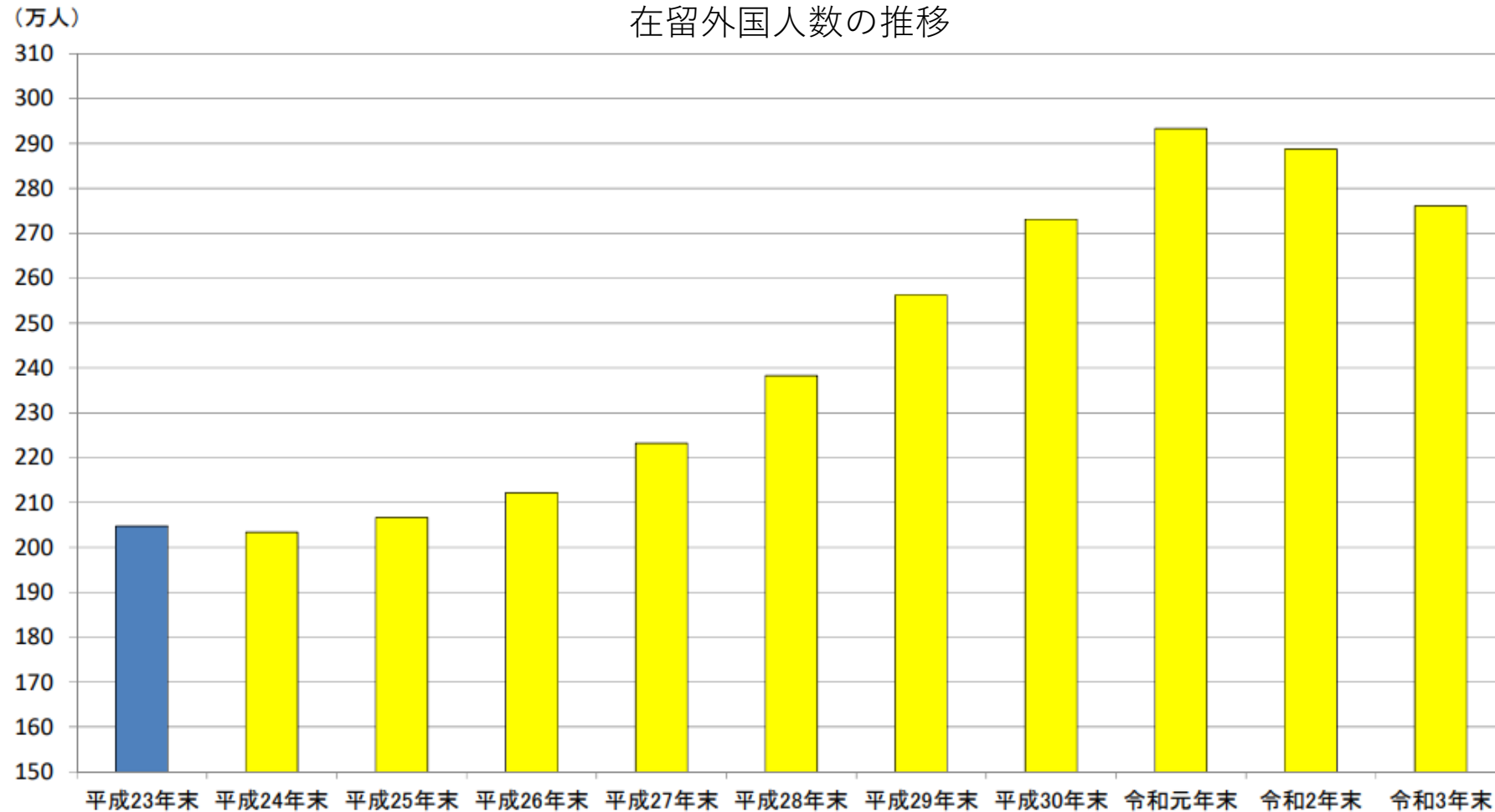
1. 研究の背景、課題の設定

2. データ・サンプルの特性

3. 分析結果

4. まとめ・考察

- ・ 日本における **在留外国人の数** は年々増加し、令和元年末には 290 万人を超えた。
- ・ 新型コロナウイルスの拡大により減少局面に転じたものの、 **いまだ 270 万人を超えている状況。**



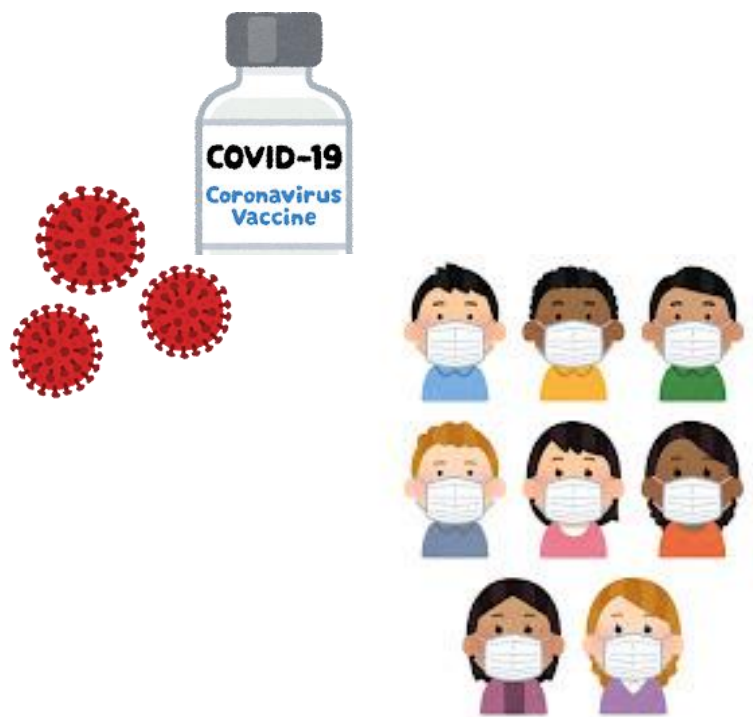
- ・ **群馬県**に住む在留外国人は**約 6 万 2 千人**。
- ・ 対人口比で見ると、**全国第 3 位**の**外国人共存県**。

都 道 府 県	令和3年末 (2021)(A)	構成比	順位	人口 (2021年10月)(B)	人口比 (A)/(B)	順位
		(%)				
総 数	2,760,635	100.0	—	125,502,000	2.2%	—
東 京 都	531,131	19.2	1	14,010,000	3.8%	1
愛 知 県	265,199	9.6	2	7,517,000	3.5%	2
群 馬 県	61,945	2.2	11	1,927,000	3.2%	3
大 阪 府	246,157	8.9	3	8,806,000	2.8%	4
静 岡 県	97,338	3.5	8	3,608,000	2.7%	5
埼 玉 県	197,110	7.1	5	7,340,000	2.7%	6
千 葉 県	165,356	6.0	6	6,275,000	2.6%	7
茨 城 県	71,121	2.6	10	2,852,000	2.5%	8
神 奈 川 県	227,511	8.2	4	9,236,000	2.5%	9
兵 庫 県	111,940	4.1	7	5,432,000	2.1%	10
福 岡 県	76,234	2.8	9	5,124,000	1.5%	11

出典：出入国在留管理庁「令和3年末現在における在留外国人数について」、総務省統計局「人口推計(2021年(令和3年)10月1日現在)」

コロナ

災害



RISK



+ α

言語

文化

慣習

自助



自分自身で対処

共助

周囲の人たちが
協力して助け合う



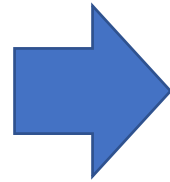
公助

公的機関による
救助・援助



仮説

「人と人とのつながりや信頼関係」が、
いざという時のリスク回避につながるのではないか？



Agenda

1. 研究の背景、課題の設定

2. データ・サンプルの特性

3. 分析結果

4. まとめ・考察

調査の概要



在留外国人に関する調査(2020)

サーベイリサーチセンター

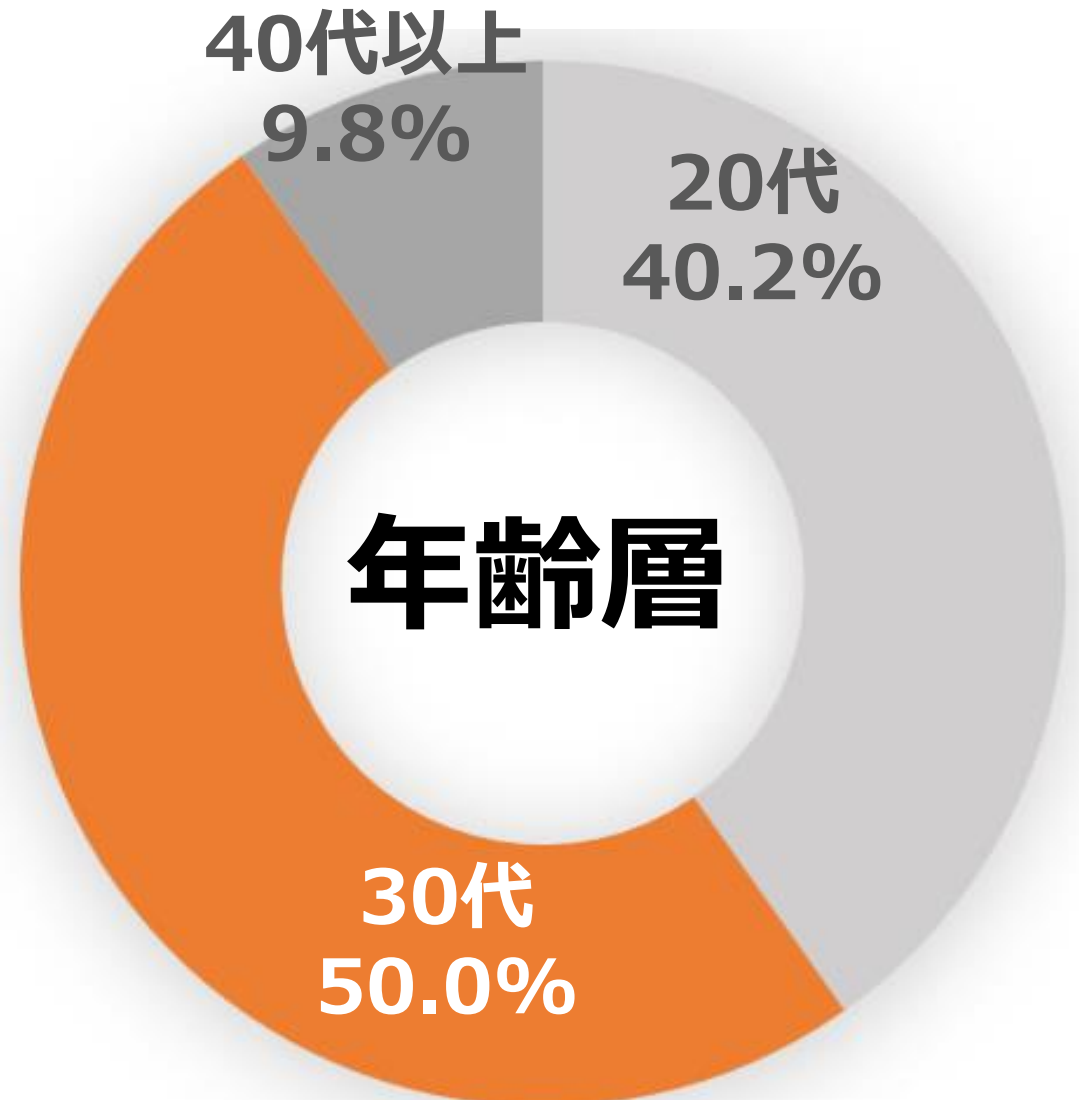
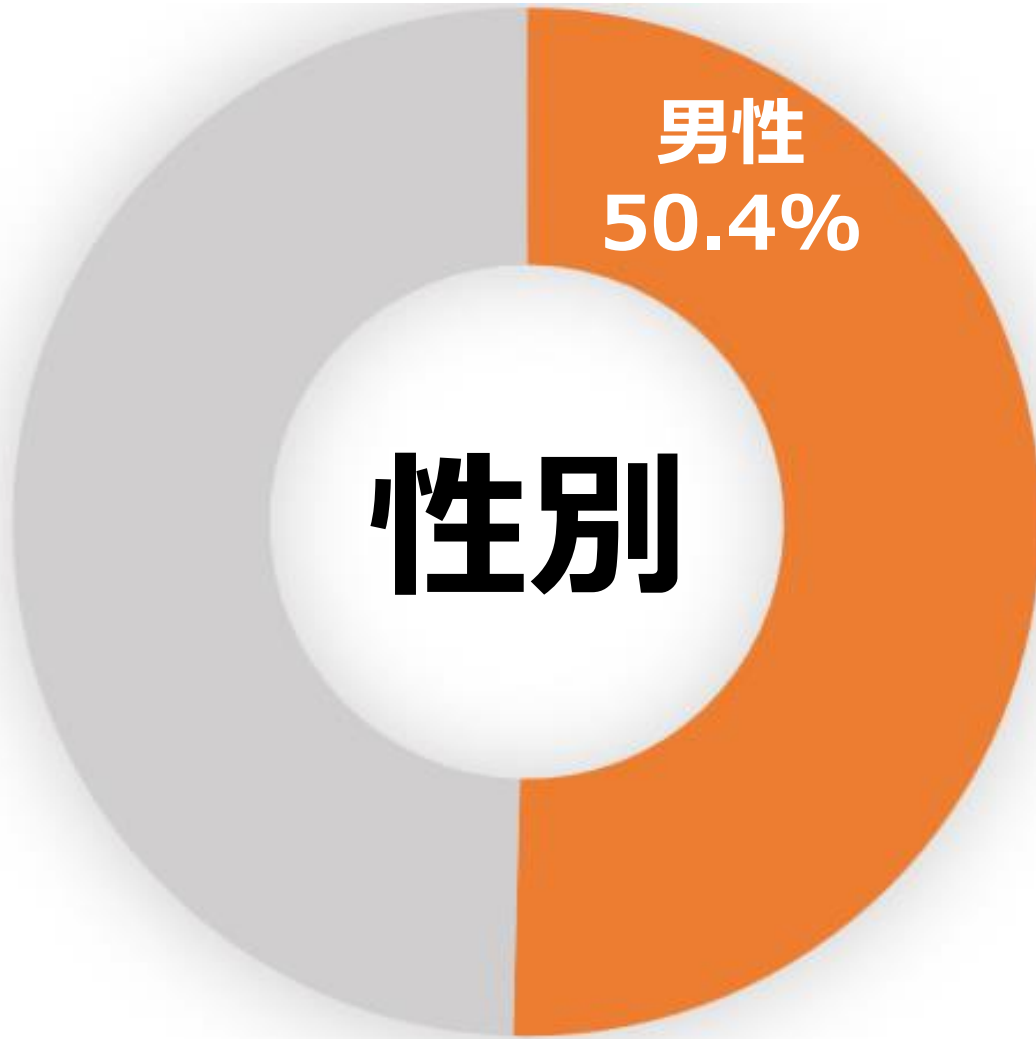


**20歳以上男女モニター
(在留外国人)**

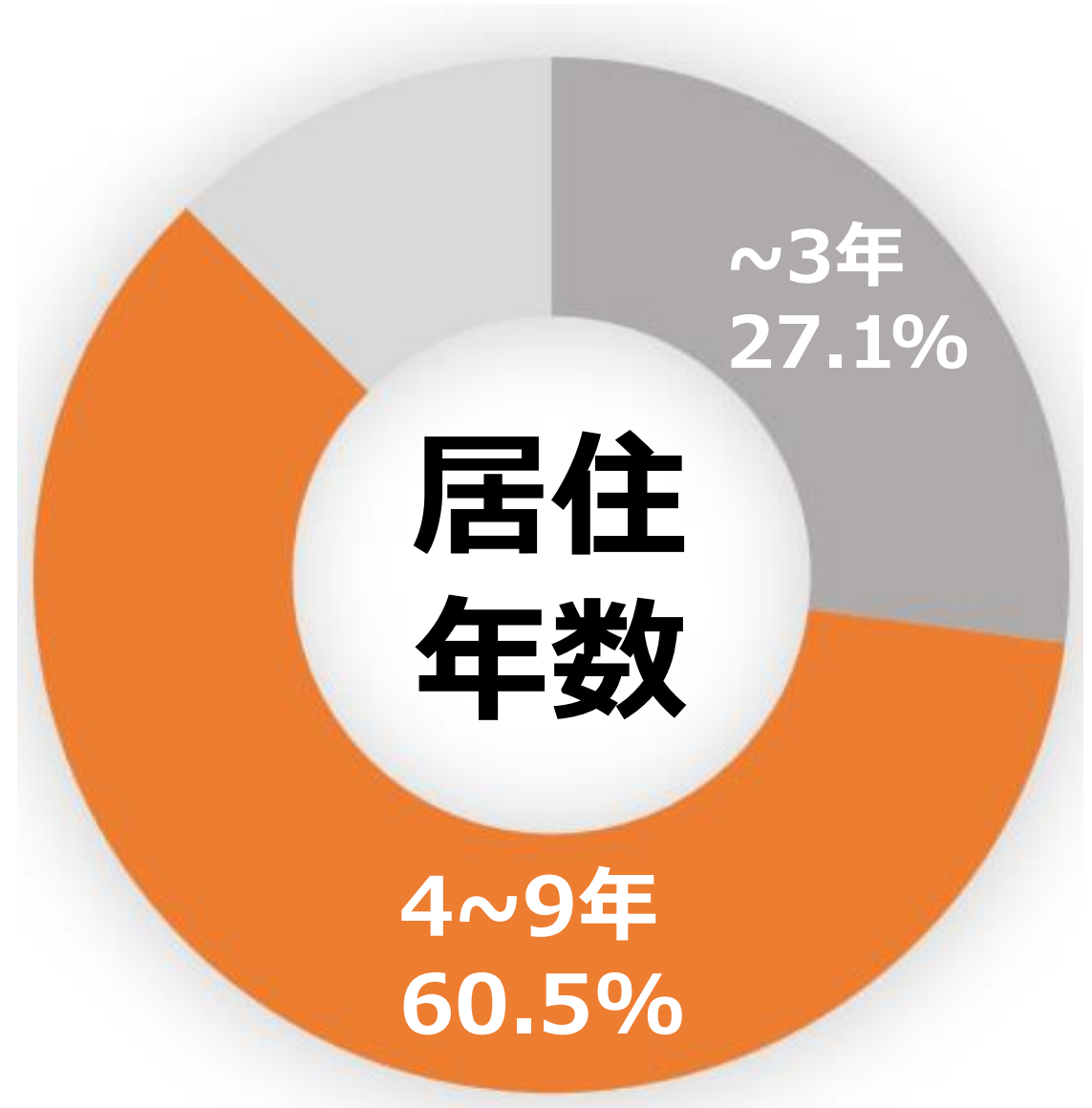
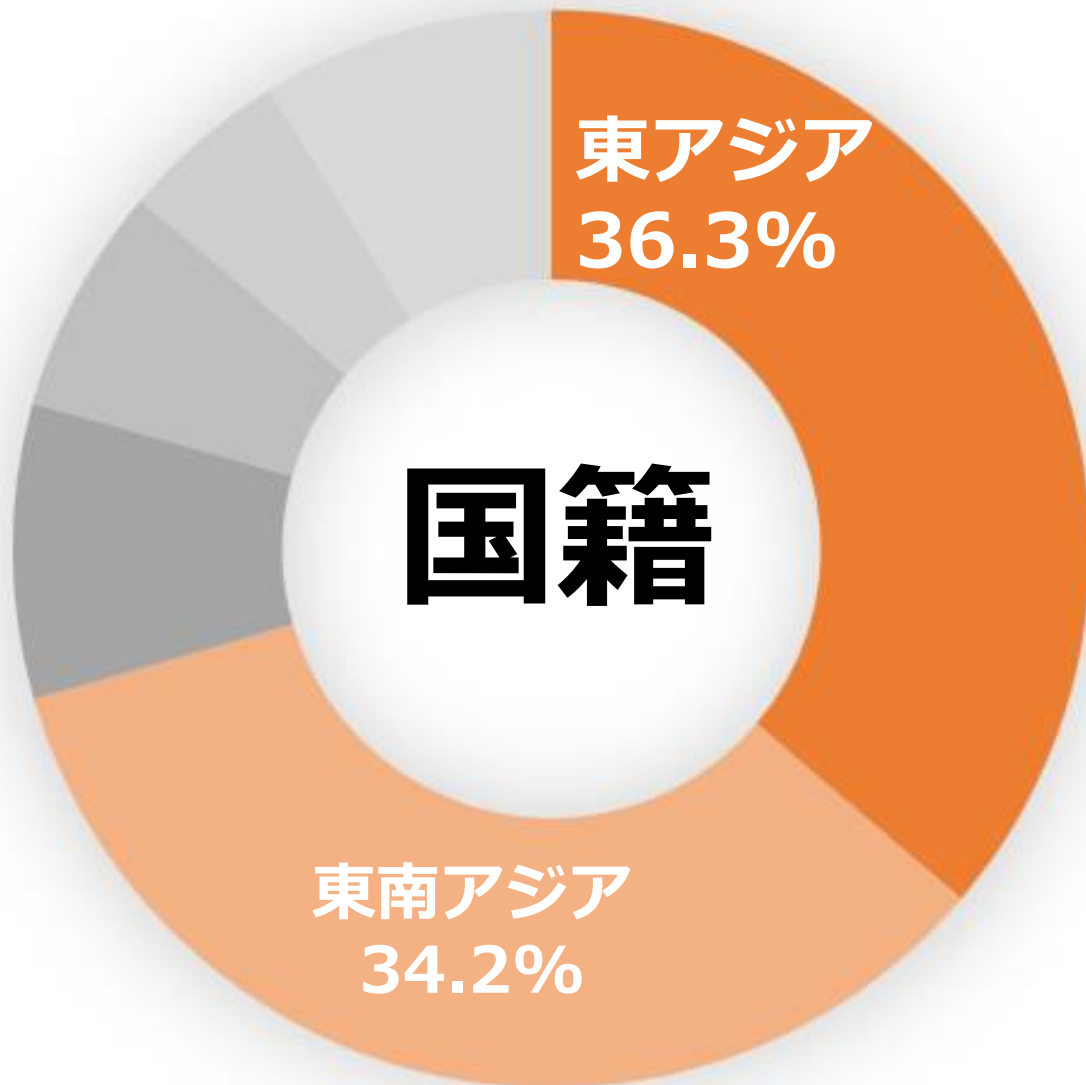


2020年3月27日～2022年4月17日

サンプル($n = 1,037$)



サンプル($n = 1,037$)



注意

- ✓ 分析に無職の者は含めない
- ✓ 人とのつながりは以下から判断
 - ・自治会への加入の有無
 - ・人づきあいの有無

使用した変数

職業形態

仕事の有無

日本語が話せるか

人とのつながり

性別

年齢

国籍

居住年数

収入

注目する変数

人とのつながり



手段

日本語が話せるか

Agenda

1. 研究の背景、課題の設定

2. データ・サンプルの特性

3. 分析結果

4. まとめ・考察

コロナウイルス

災害

保険

年金

主な分析方法

変数を用いて**ロジスティック回帰分析**をおこなう

注目する変数が**統計的有意性**を持つか分析

= **回答に影響をもたらすのか？**

Agenda

1. 研究の背景、課題の設定

2. データ・サンプルの特性

3. 分析結果

4. まとめ・考察

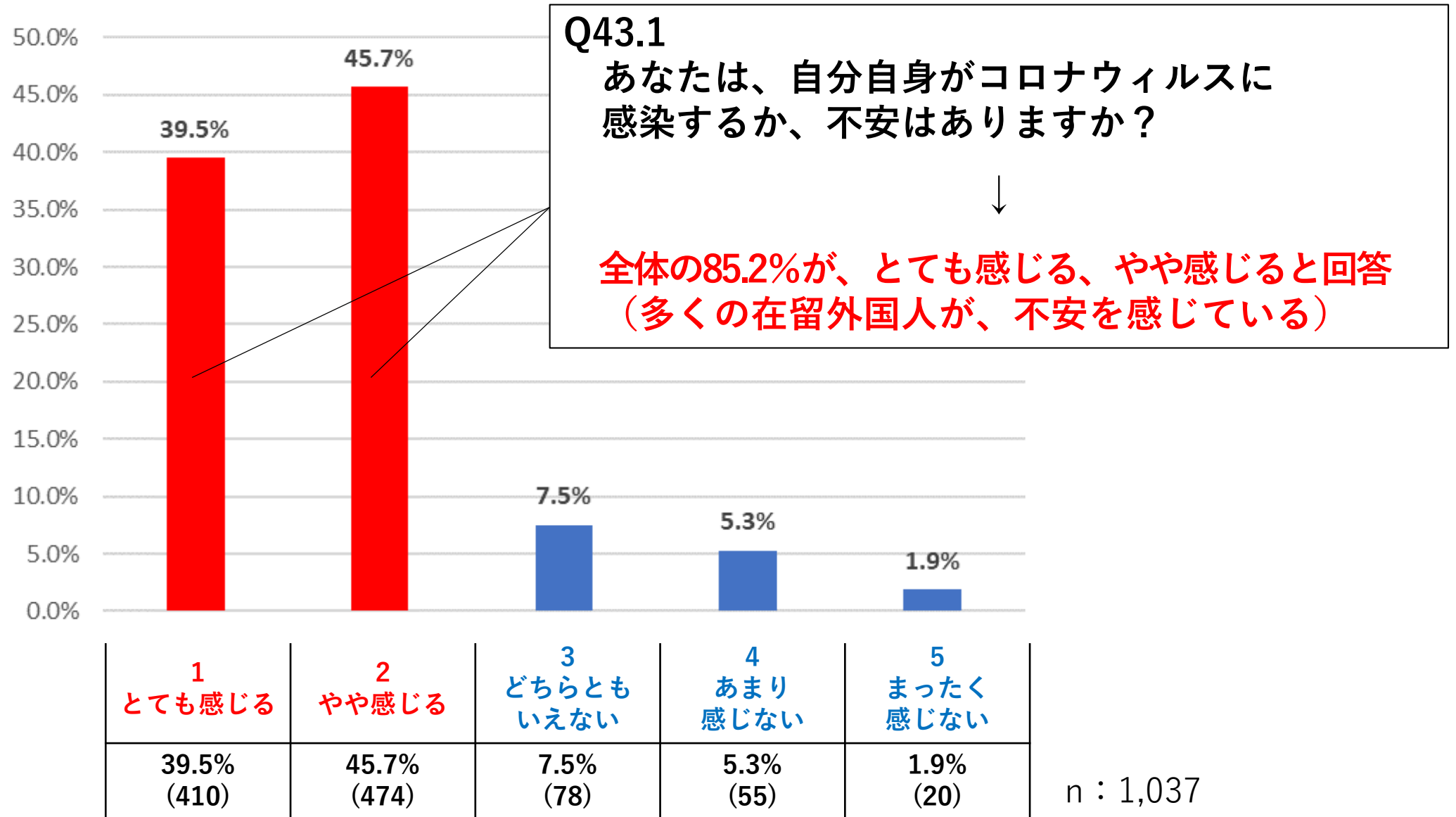
コロナウイルス

災害

保険

年金

1 単純集計



2 多変数解析（ロジスティクス解析）

Q43.1 コロナウィルスの感染不安に対して、
「どちらともいえない」「あまり感じない」「まったく感じない」と回答した人を0、
「とても感じる」「やや感じる」と回答した人を1、 としてロジスティクス分析を行った。

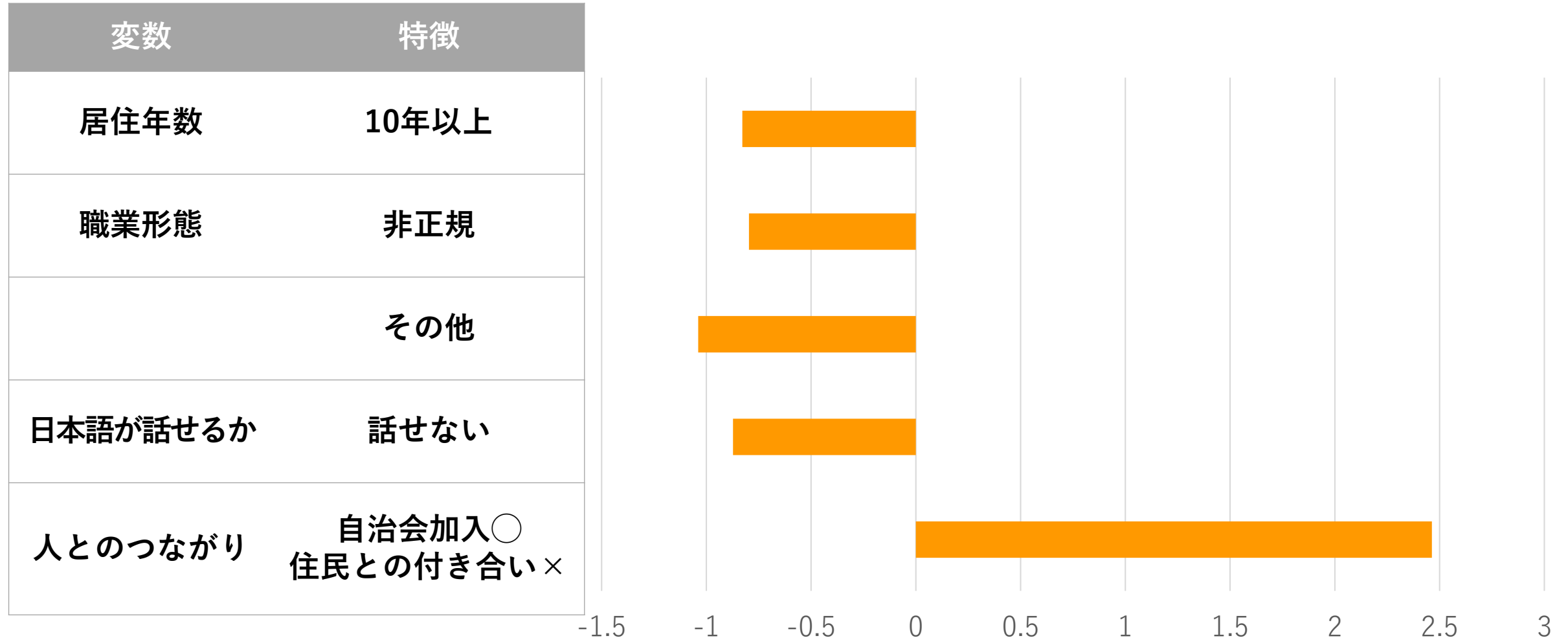
変数	特徴	P値	
居住年数	10年以上	0.007980	**
職業形態	非正規	0.001116	**
	その他	0.009195	**
日本語が話せるか	話せない	0.000591	***
人とのつながり	自治会加入○・住民との付き合い×	0.018475	*

※|(p値)|<0.05のものを選出

※0~0.001***, 0.001~0.01***, 0.01~0.05*

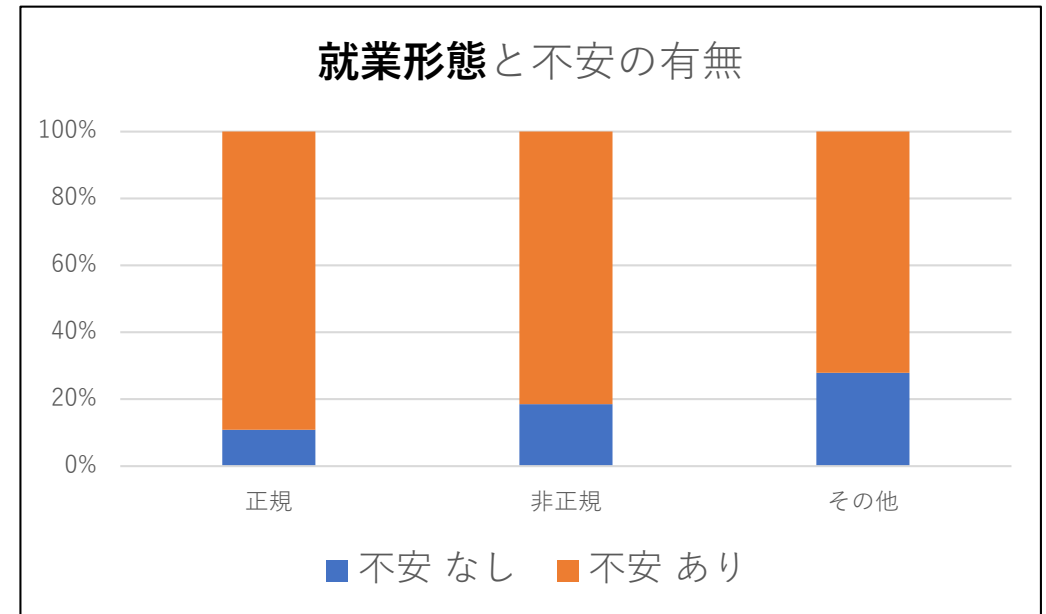
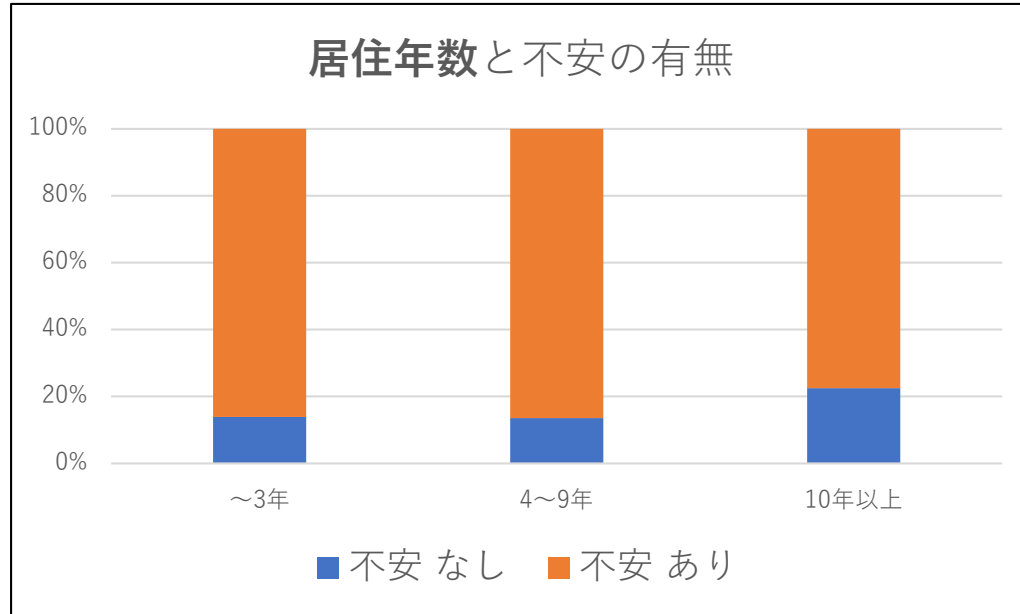
2 多変数解析 (ロジスティクス解析)

回帰係数値の比較



3 多変数解析 (クロス集計)

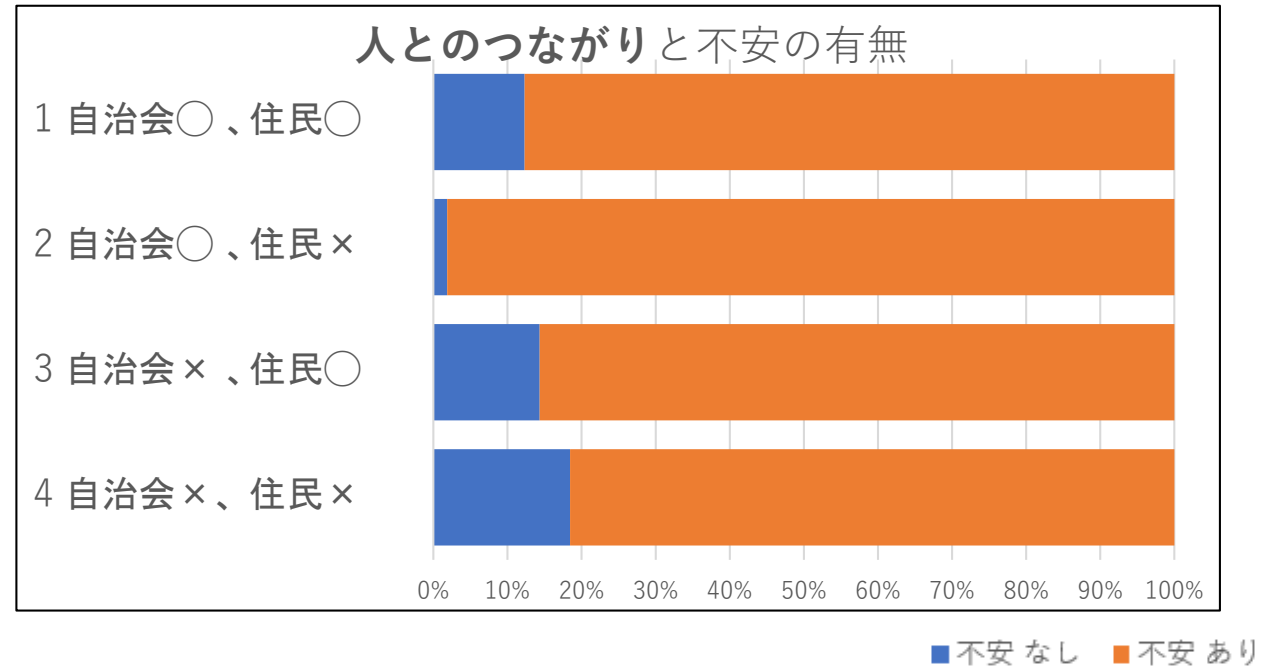
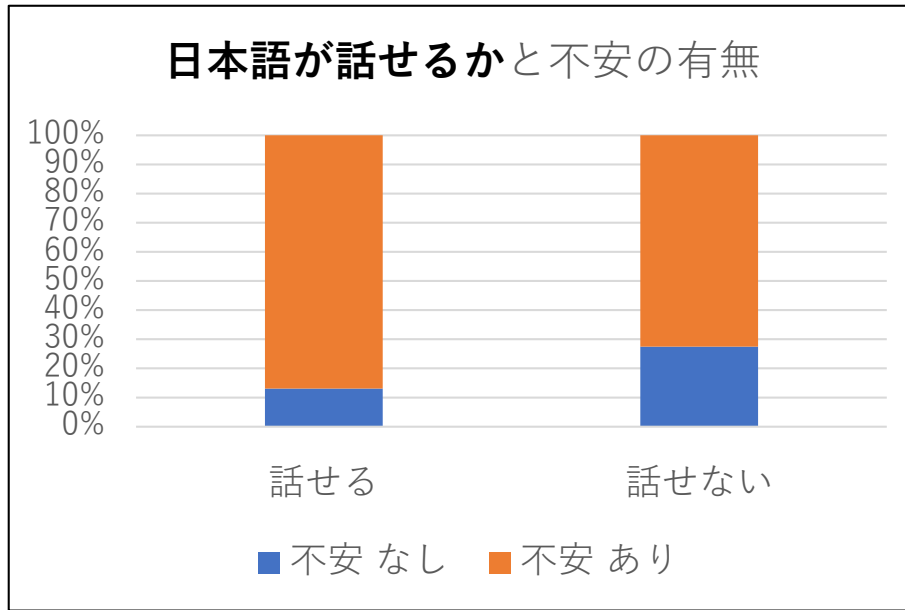
※ロジスティック回帰分析の結果P値<0.05の項目を抽出



- [居住年数] ・ 不安を感じる割合は、「10年以上」が最も少なかった。
・ 10年以上とそれ未満では、**10%程**の差がみられた。

- [就業形態] ・ 不安を感じる割合は、「正規雇用」が最も多かった。
・ 正規雇用と非正規雇用・その他（自営業主、研修生・実習生等）では、**10%程度ずつ**の差がみられた。

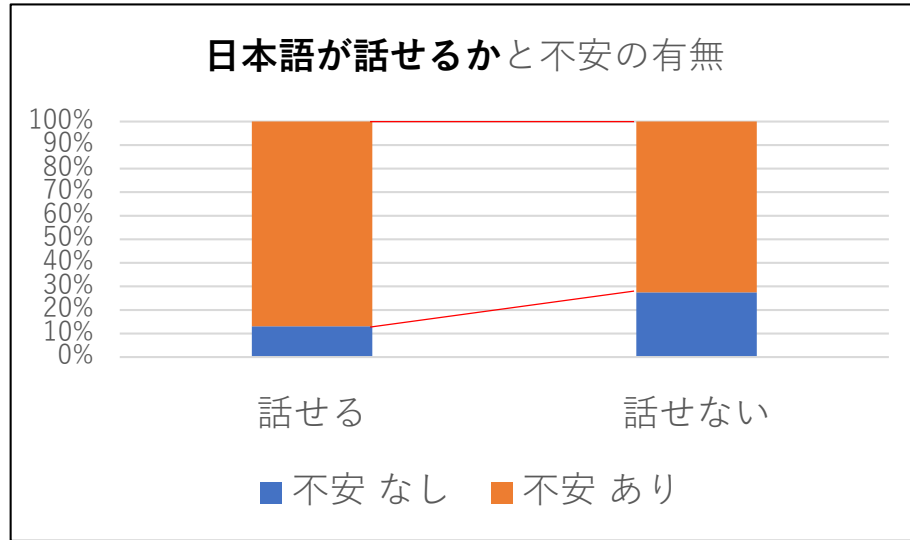
3 多変数解析（クロス集計） ※注目した変数



- [日本語が話せるか]
- ・ 不安を感じる割合は、「日本語が話せる」人の方が多かった。
 - ・ 不安を感じる割合は、両者の間で**15%程**の差がみられた。

- [人とのつながり]
- ・ 不安を感じる割合は、「自治会には加入しているが、住民との付き合いがない」(1 自治会○、住民×) 人たちが最も多かった。
 - ・ 「1 自治会○、住民○」と「2 自治会○、住民×」との間では、不安を感じる割合に**15%程**の差がみられた。

まとめ・考察（コロナウィルス）



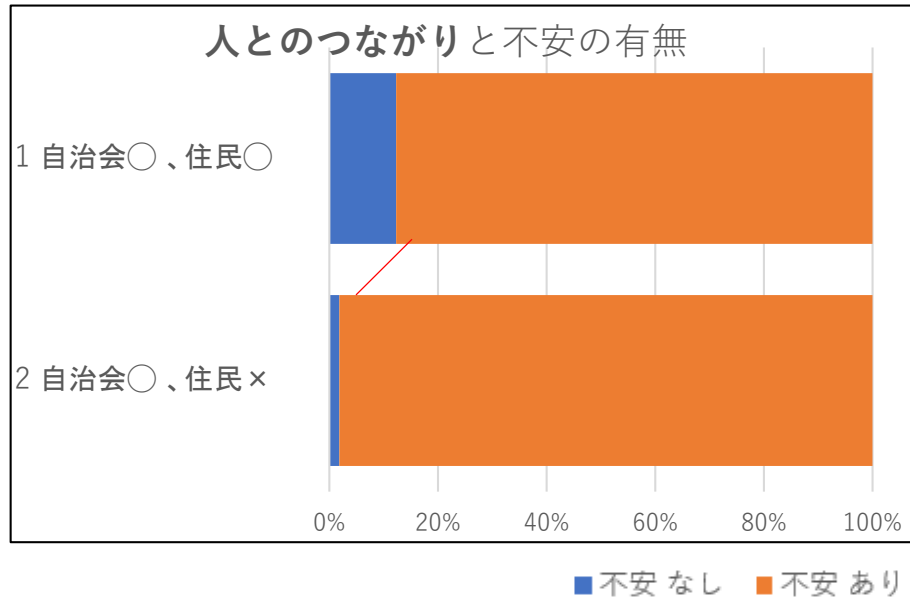
1 「日本語が話せるか」

(分析結果)

- ・ 不安を感じる割合は、両者の間で15%程の差がみられた

(結果からの考察)

- ・ 日本語が話せないことが不安に直結するわけではない
- ・ むしろ、日本語が話せる（≡情報に触れる機会が増す）ことで、
不安が増えるのではないかと
⇒ 正しく不安がることが重要



2 「人とのつながり」

(分析結果)

- ・ 「1 自治会〇、住民〇」と「2 自治会〇、住民×」の間では、
不安を感じる割合に15%程の差がみられた。

(結果からの考察)

- ・ 「自治会への加入」よりも「住民との付き合いがある」ことが
不安を軽減するのではないかと
⇒ 日常的なコミュニケーションを担保することが重要

Agenda

1. 研究の背景、課題の設定

2. データ・サンプルの特性

3. 分析結果

4. まとめ・考察

コロナウイルス

災害

保険

年金

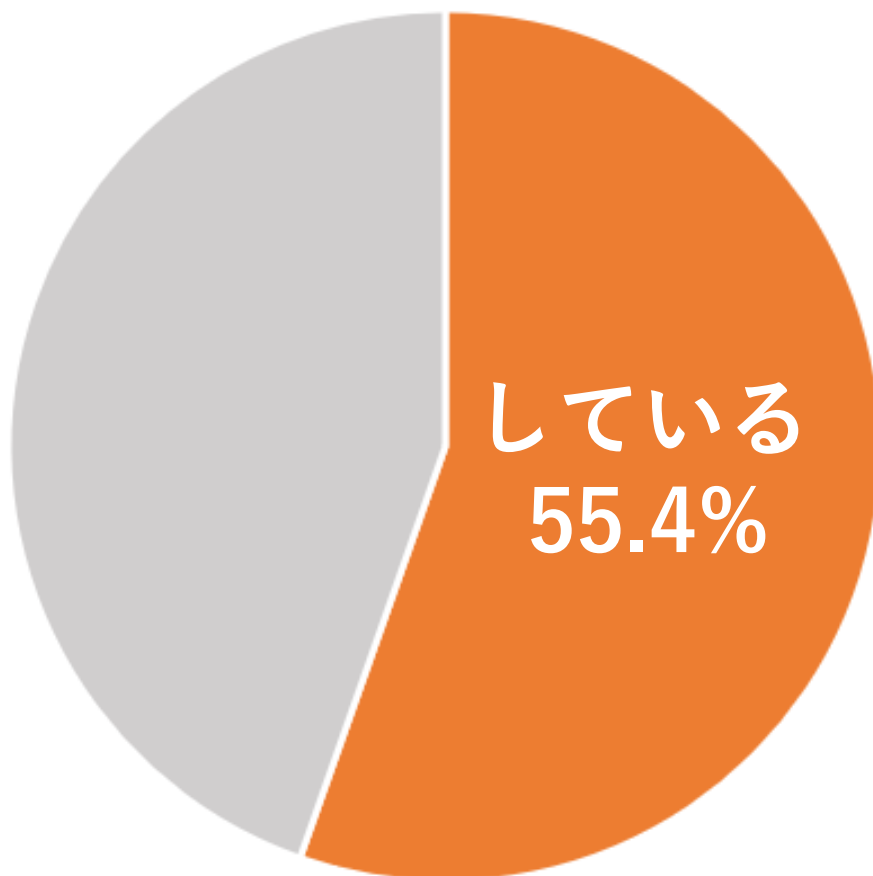
災害に関する分析

Q49 災害のために備えている
ことはあるか？

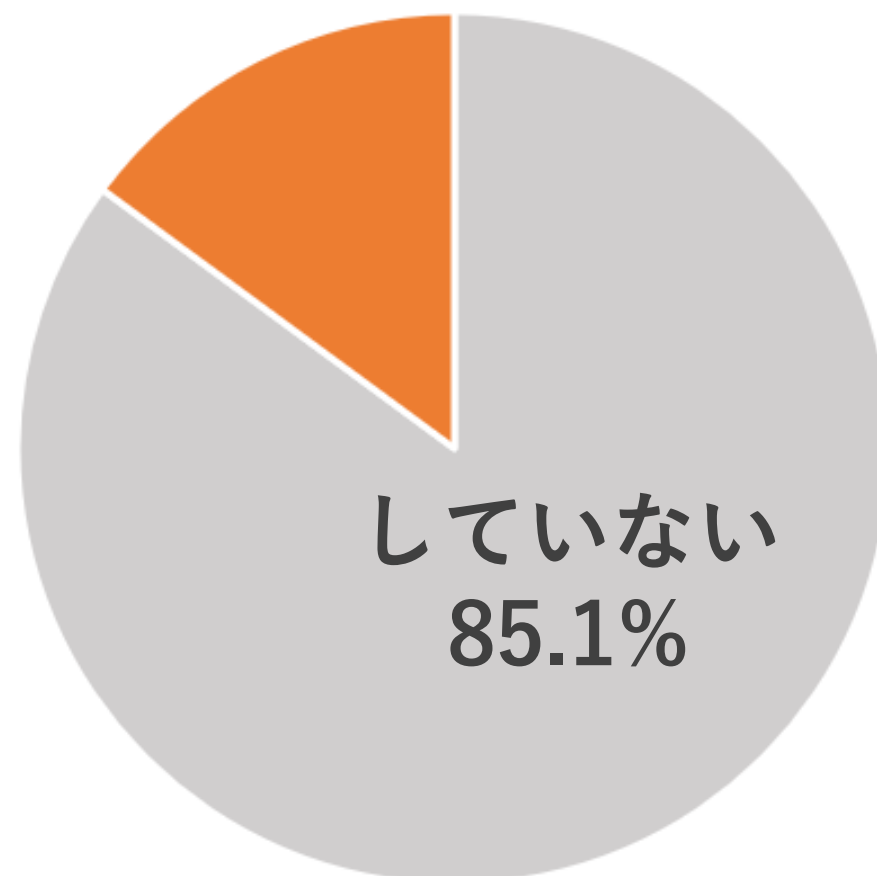
- ✓ 食料や飲料水を準備している
- ✓ 家具などを固定し転倒を防止している

単純集計①

食料や飲料水を準備

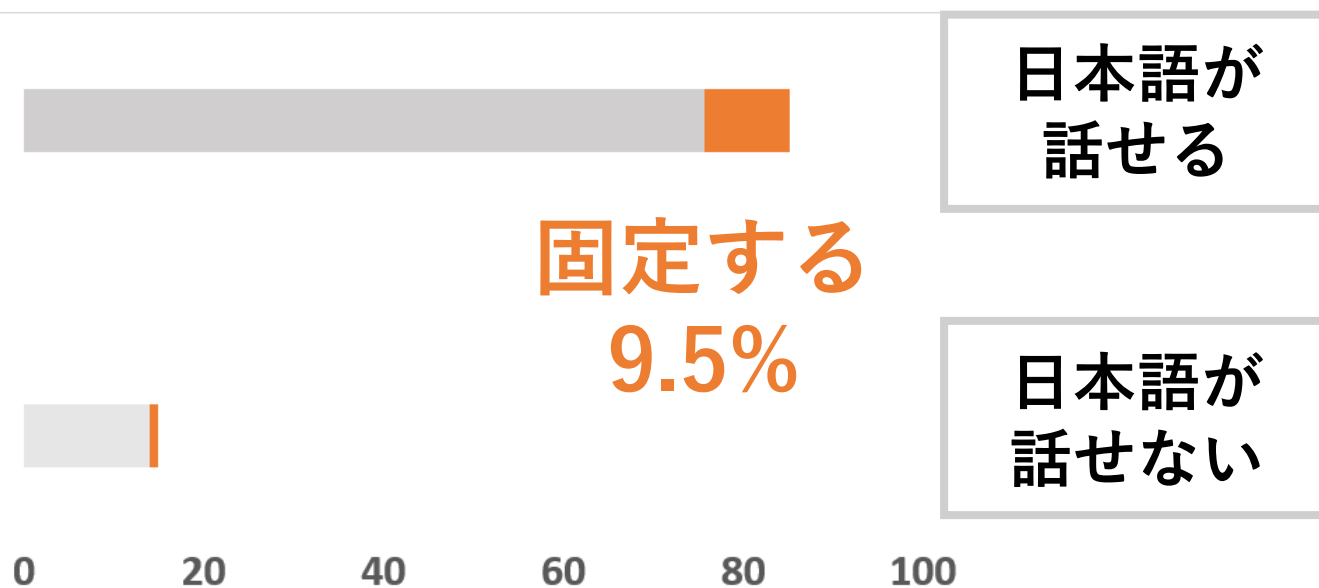


家具を固定

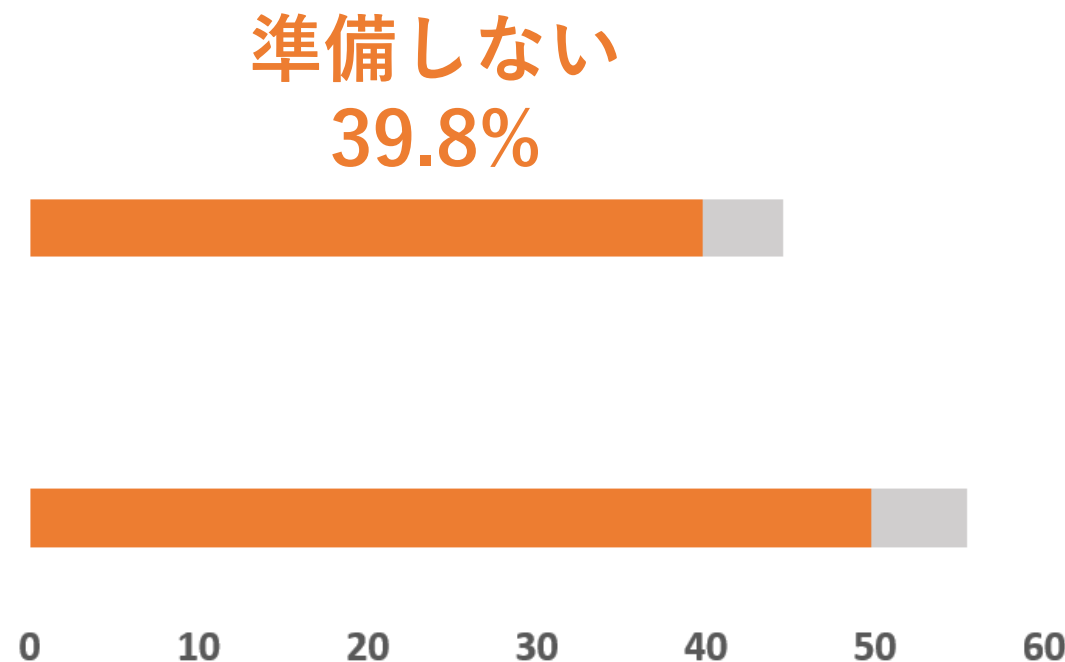


単純集計②：クロス集計

家具を固定



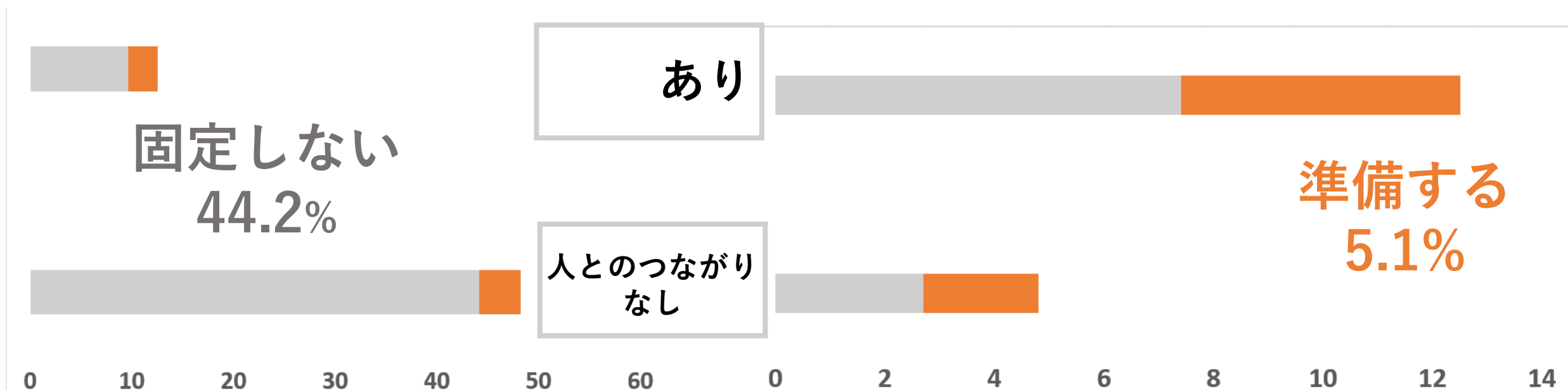
食料や飲料水を準備



単純集計②：クロス集計

家具を固定

食料や飲料水を準備



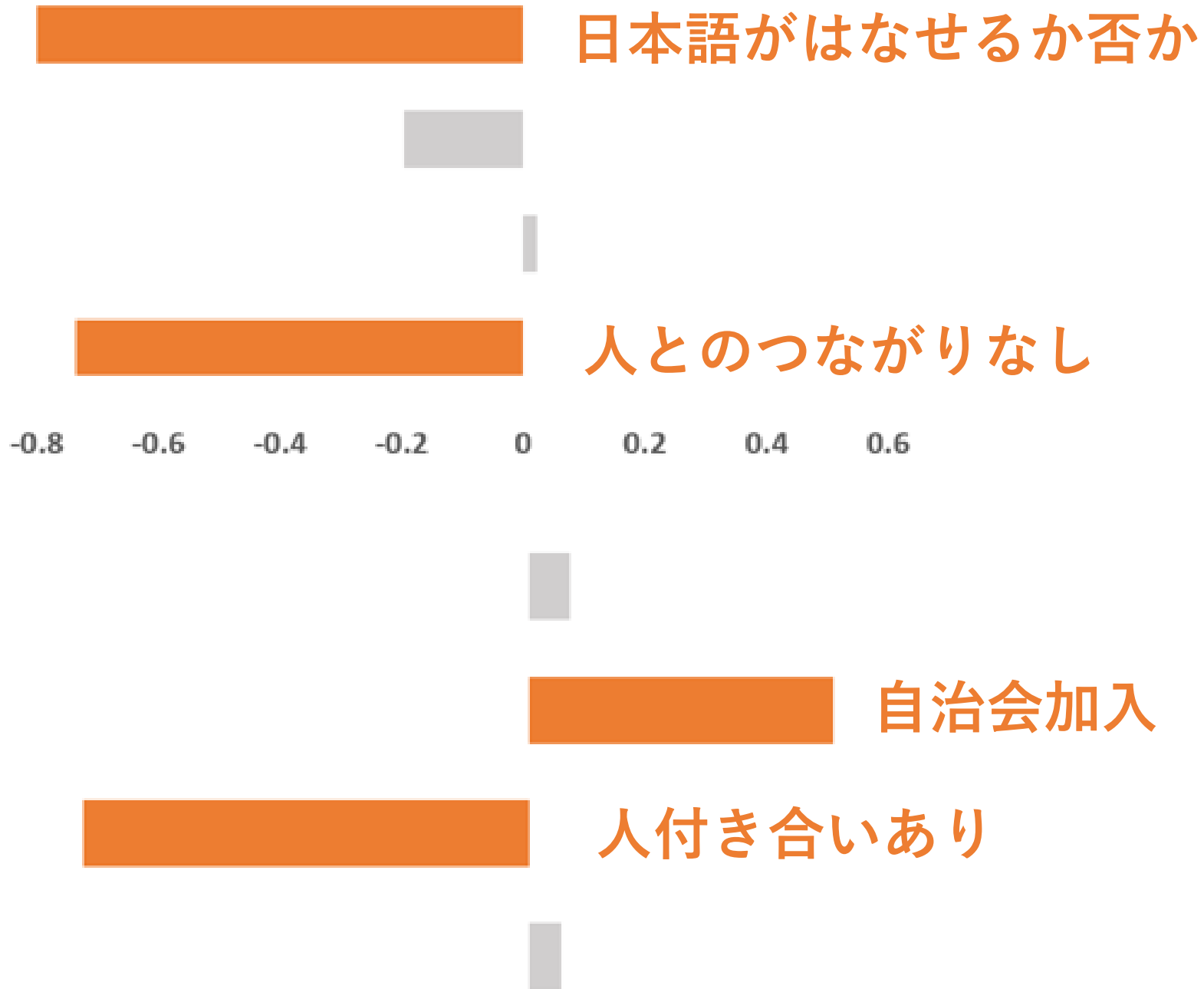
分析結果

(回帰係数値)

食料や飲料準備

家具を固定

※統計的に有意なもの



まとめ

	日本語	人との つながり
食料・飲料水 準備	○ 話せない方が準備 をしない	◎ なしの方が準備を しない
家具の固定	×	○ 自治会加入・人づ き合いに有意性

Agenda

1. 研究の背景、課題の設定

2. データ・サンプルの特性

3. 分析結果

4. まとめ・考察

コロナウイルス

災害

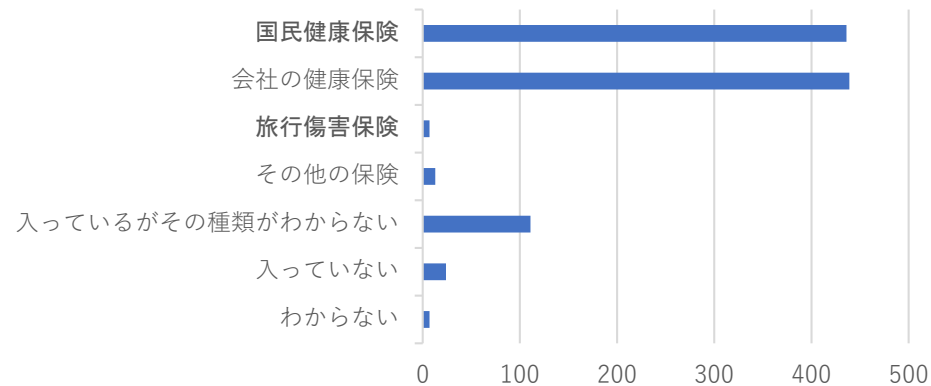
保険

年金

単純集計 - 1

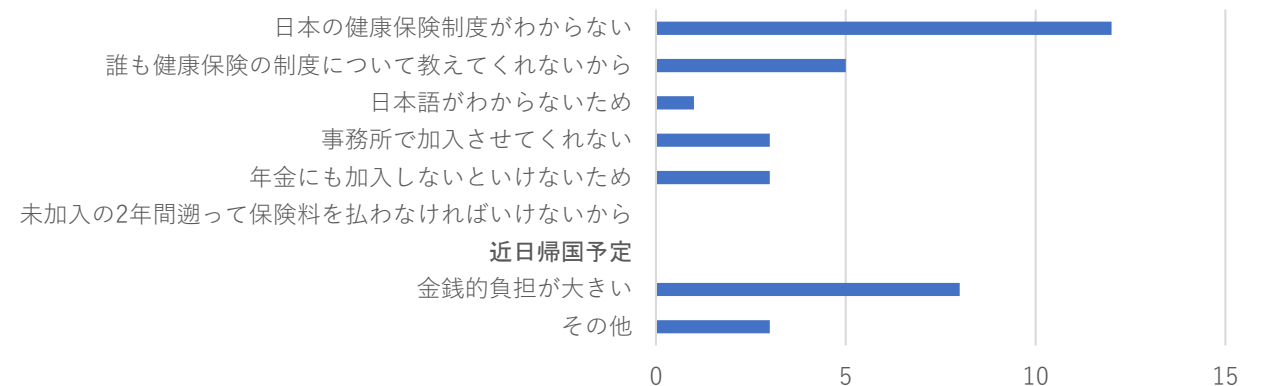
Q34 健康保険への加入状況

【1つだけ】



Q35 健康保険に加入していない理由

【あてはまるものすべて】（Q34=6・7）

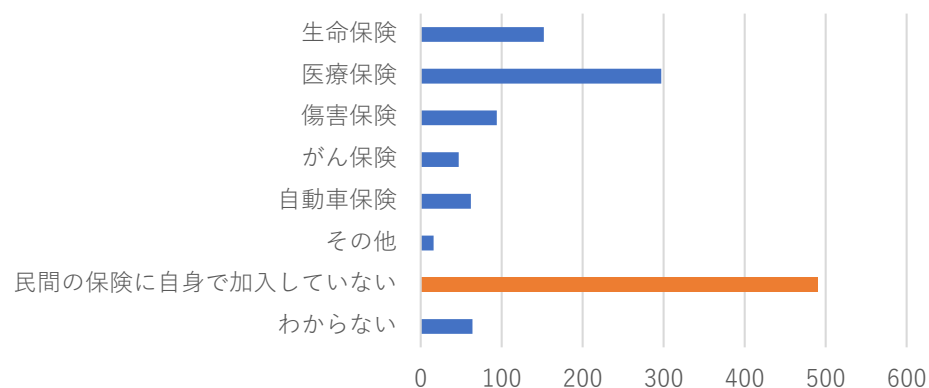


「国民健康保険」「会社の健康保険」のいずれかに加入している人は、
84.3%

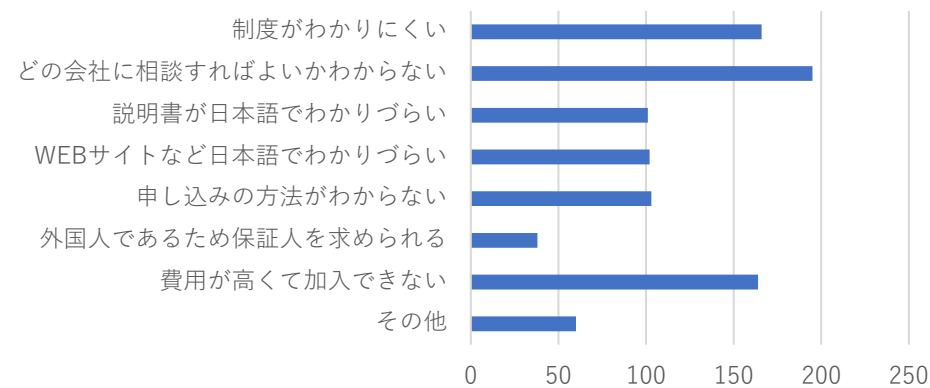
健康保険に加入をしていない理由は、保険制度の煩雑さや金銭面の問題が影響してくるようだ。

単純集計 - 2

Q36 民間の保険会社等の「各種の保険」
への加入状況【あてはまるものすべて】



Q37 保険に加入していない理由
【あてはまるものすべて】 (Q36=7・8)

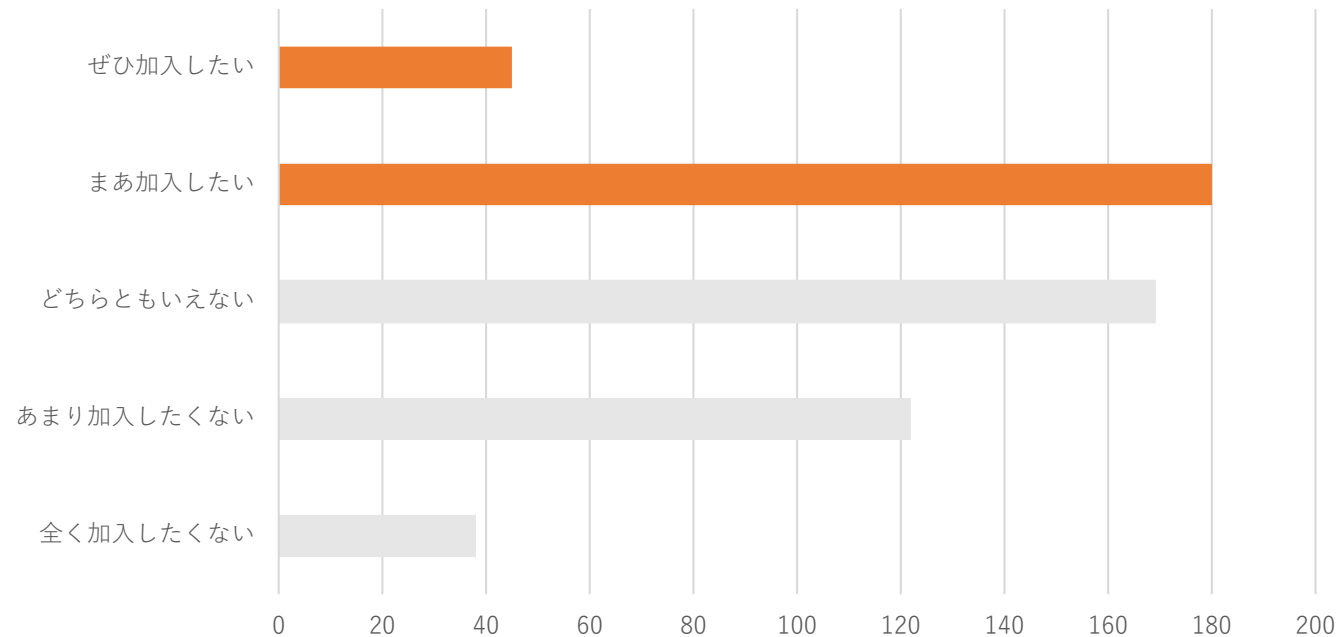


民間保険となると、加入率は下がり、「加入していない」「わからない」を合わせると、**53.5%**にもものぼる。

民間の保険に加入をしていない理由は、保険制度の煩雑さや金銭面の問題に加えて、「どの保険会社に相談すればよいかわからない」という問題があるようだ。

単純集計 - 3

Q38 保険会社への加入意向
【1つだけ】（Q36=7・8）



民間の保険に「加入していない」
「わからない」と回答した人のうち、

ぜひ加入したい」「加入したい」と回答している人が多い。

2つを合わせると、40.6 %の人が加入したいと思っている。

民間の保険への加入をしたいのに、
加入していないのはなぜ？

変数

性別

収入

仕事の有無

年齢

移住年数

日本語が話せるか

国籍

職業形態

地域との関わり

統計的に有意であったもの

性別

収入

仕事の有無

年齢

移住年数

日本語が話せるか

国籍

職業形態

地域との関わり

※「地域との関わり」は、一部が統計的に有意と認められた。

他の説明関数を考慮した多変数解析－1－(1) (ロジスティクス解析)

民間の保険への加入の有無

※民間の保険に「加入していない」、「わからない」のいずれかに回答した人を0、いずれかの保険に加入している人を1としてロジスティクス分析を行った。

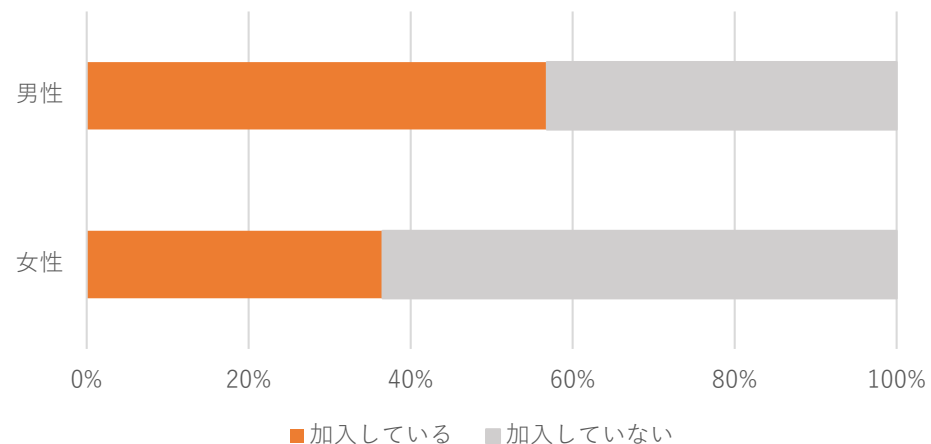
変数	特徴	P値	
性別	男性	0.03385	*
年齢	30代	3.42e-06	***
	40代以上	0.00032	***
国籍	東南アジア	0.00454	**
日本語が話せるか	話せない	0.00777	**
自治体との関わり	自治体×・住民○	5.76e-09	***
	自治体×・住民×	5.10e-16	***

※|(p値)|<0.05のものを選出

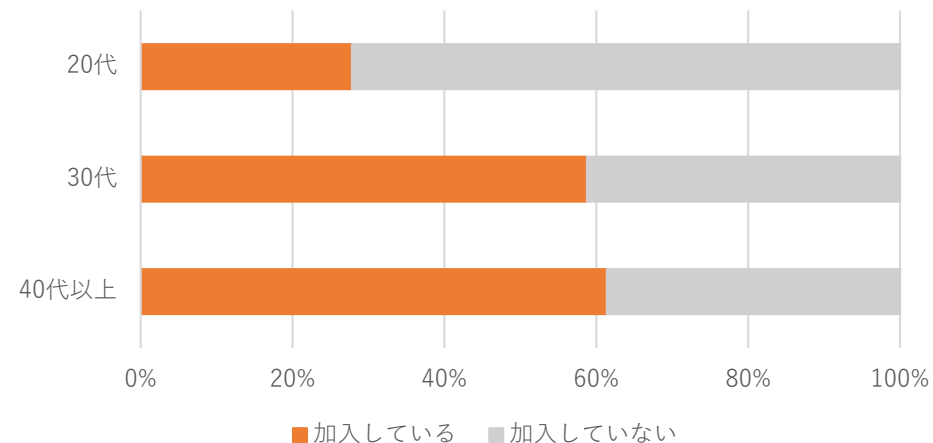
※0~0.001***, 0.001~0.01***, 0.01~0.05*

他の説明関数を考慮した多変数解析 - 1 - (2) (クロス集計)

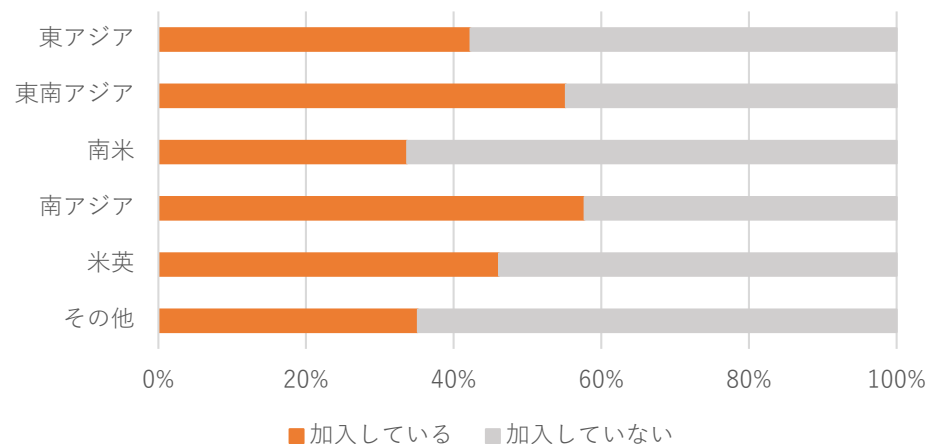
性別と民間保険加入の有無



年齢と民間保険加入の有無



国籍と民間保険加入の有無



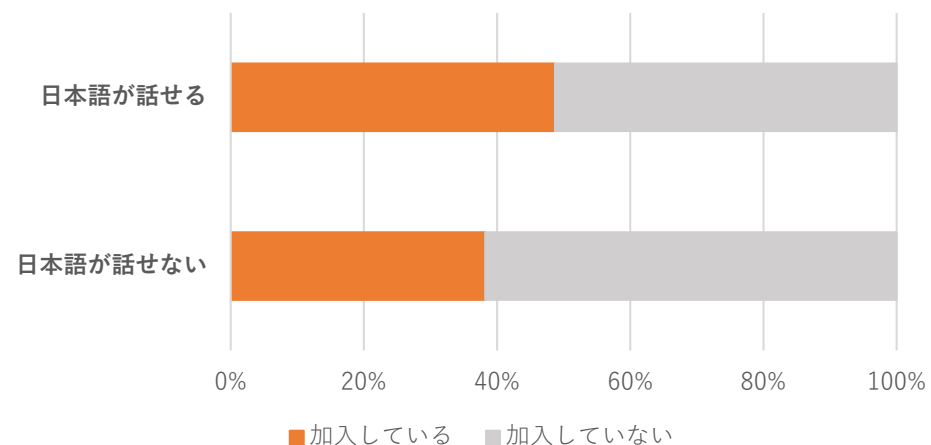
[性別] 男性と女性で**20%程**の差がみられる。

[年齢] 20代は加入している割合が小さい。
20代と30代以上では**30%程**の差がみられる。

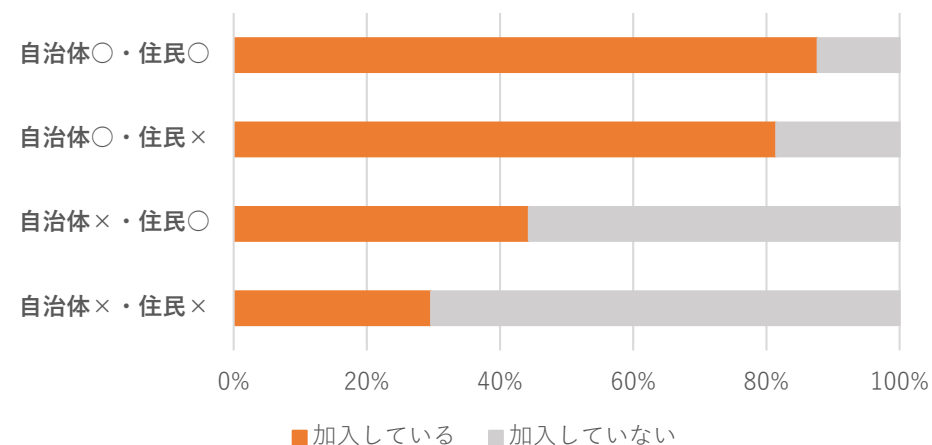
[国籍] 国籍・地域によって、最大**20%程**の差がみられる。

他の説明関数を考慮した多変数解析 - 1 - (3) (クロス集計)

日本語が話せるかと民間保険加入の有無



地域とのつながりと民間保険加入の有無



[日本語が話せるか] 日本語が話せるかで**10%程**の差がみられる。

[地域とのつながり] 自治体×・住民×で「加入していない」のは、**70%程**と非常に高い。
地域とのつながりが薄れるにつれて、加入率が下がっている。

変数

性別

収入

仕事の有無

年齢

移住年数

日本語が話せるか

国籍

職業形態

地域との関わり

統計的に有意であったもの

性別

収入

仕事の有無

年齢

移住年数

日本語が話せるか

国籍

職業形態

地域との関わり

他の説明関数を考慮した多変数解析－2－(1) (ロジスティクス解析)

民間の保険への加入意向

※民間の保険に「ぜひ加入したい」、「まあ加入したい」のいずれかに回答した人を1、他のものに回答した人を0としてロジスティクス解析を行った。

変数	特徴	P値
国籍（kokuseki6）	東南アジア	0.015625 *
	南米	0.000893 ***
	南アジア	0.033719 *
就業形態（workstyle）	その他	0.027825 *

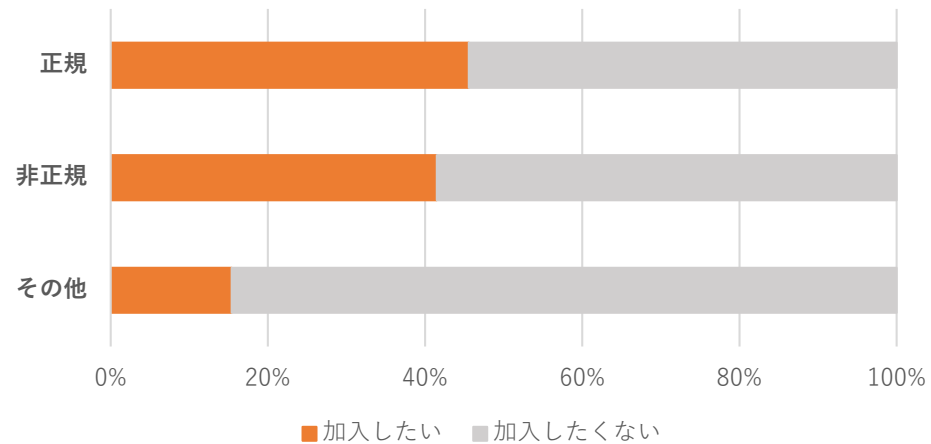
※ $|(\text{p値})| < 0.05$ のものを選出

※0～0.001***, 0.001～0.01***, 0.01～0.05*

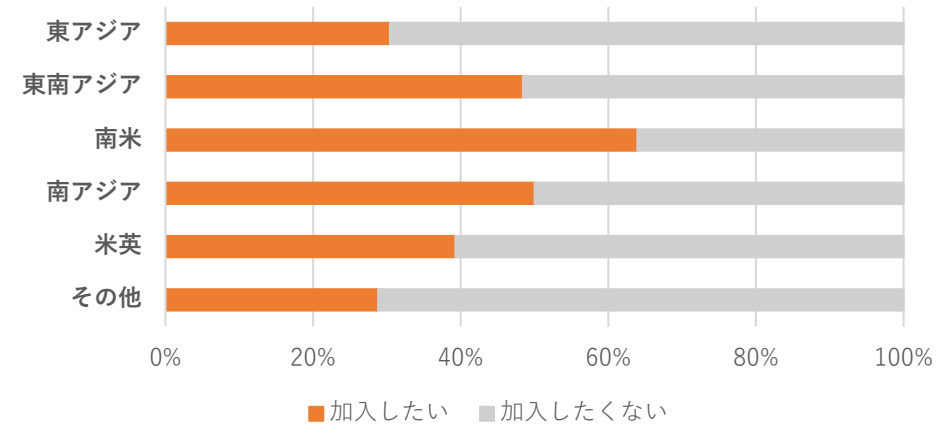
他の説明関数を考慮した多変数解析 - 2 - (2)

(クロス集計)

就業形態と保険加入意向



国籍と保険加入意向



[就業形態] 「正規」と「非正規」では差がみられないが、「その他」とは**20%以上**の差がある。

「その他」で「加入したい」と思う割合が、極端に小さい。

[国籍] 国籍・地域によって、最大**30%以上**の差がみられる。

まとめ

・ 民間の保険への加入の有無

[日本語が話せるか] 日本語が話せる人の方がと**10%程**の加入率が高い。

[地域との関わり] 地域とのつながりが薄れるにつれて、加入率が下がっている。

→ 日本語教育や地域社会との関わりを積極的に行うことで、リスク回避ができる。

※ただし、加入意向との相関関係は論じることができない。

Agenda

1. 研究の背景、課題の設定

2. データ・サンプルの特性

3. 分析結果

4. まとめ・考察

コロナウイルス

災害

保険

年金

年金の分析

- ・ Q40(年金への加入状況)について分析を行う。
- ・ 与えられた変数の中から、**統計的に有意なもの**を抽出する。

年金の分析①(ロジスティック分析)

統計的に有意な変数

性別

収入

仕事の有無

年齢

移住年数

日本語が話せるか

国籍

職業形態

地域との関わり

年金の分析①(ロジスティック分析)

- Q40で年金に加入している。」に回答した人を1、「していない」に回答した人を0としてロジスティック分析を行った。
- 統計的に有意なものを抽出した表が右である。

変数	特徴	P値
居住年数	4～9年	0.003622
	10年以上	1.99E-08
収入	100000円～199999円	0.003822
	200000円～299999円	0.010815
	300000円～399999円	1.23E-06
	400000円～	0.000107
雇用形態	非正規	2.95E-05
自治会	加入	9.45E-13

年金の分析①(ロジスティック分析)

回帰係数
(有意)

居住年数4~9年

10年~

収入

100000円~199999円

200000円~299999円

300000円~399999円

400000円~

雇用形態非正規

自治会 加入

-1.5

-1

-0.5

0

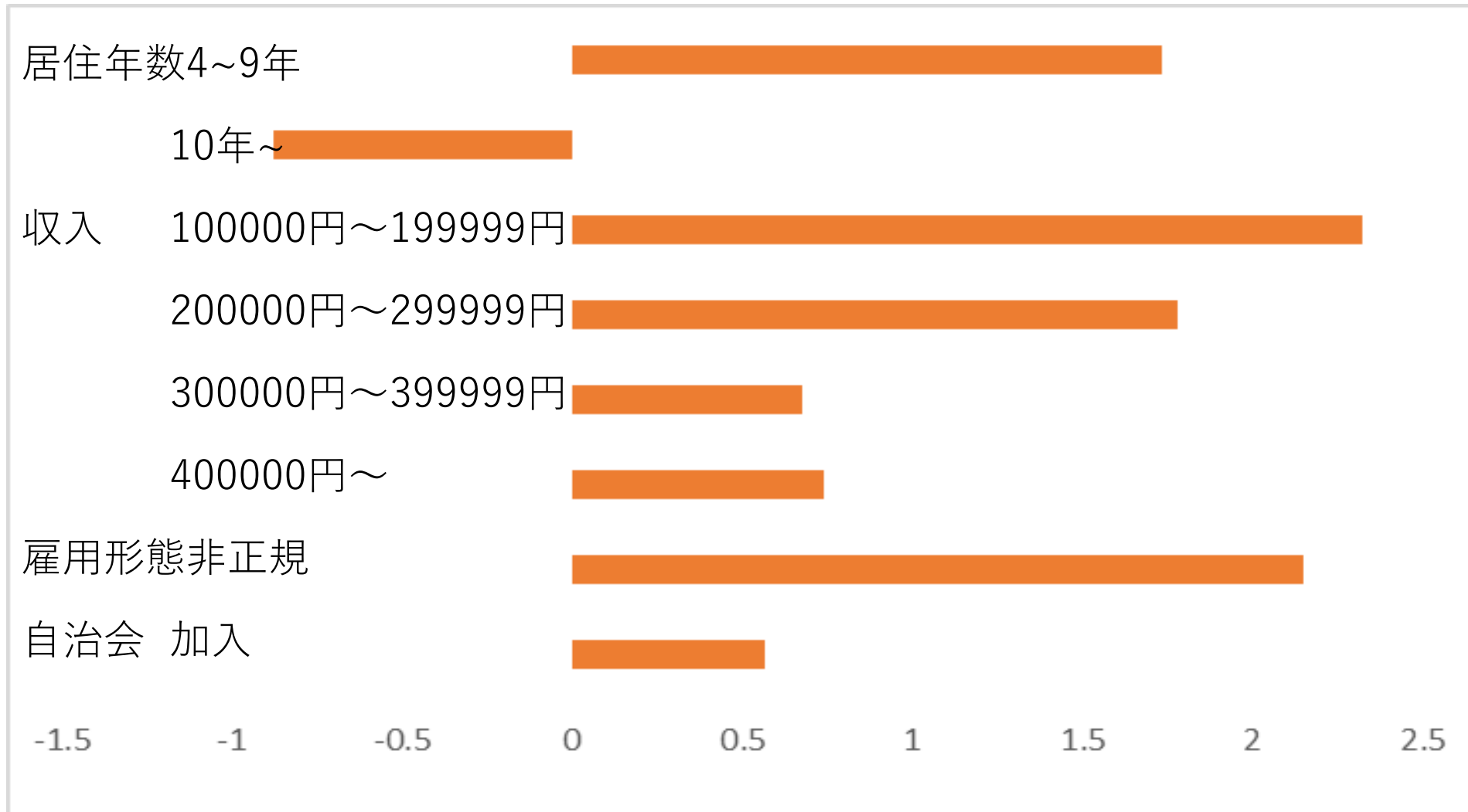
0.5

1

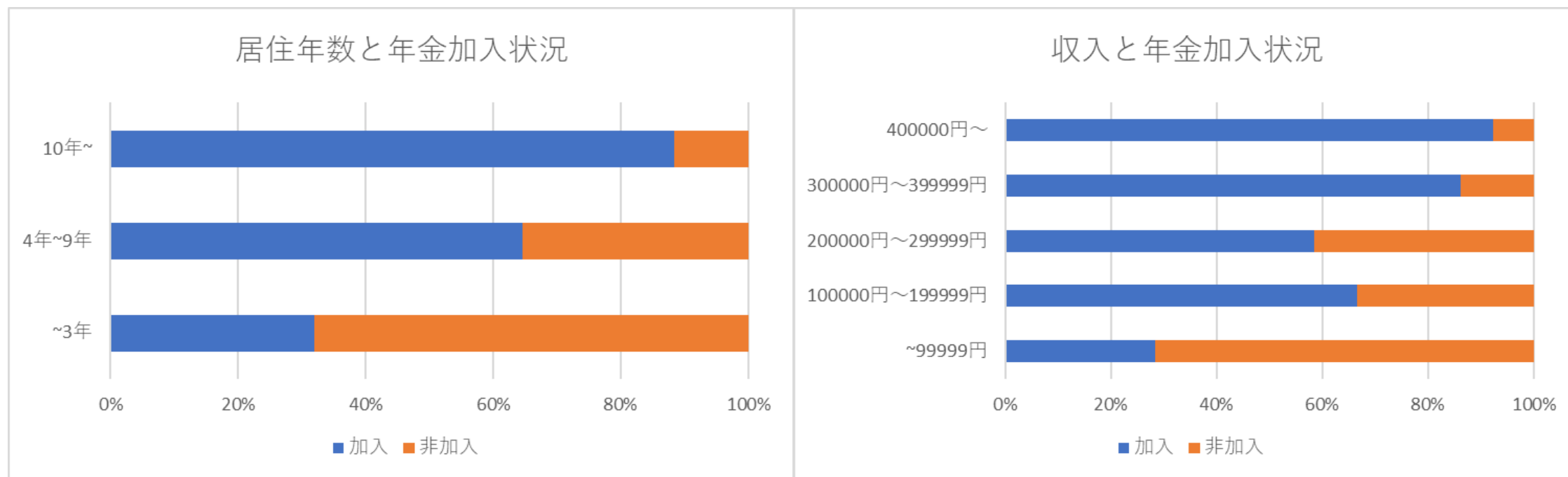
1.5

2

2.5

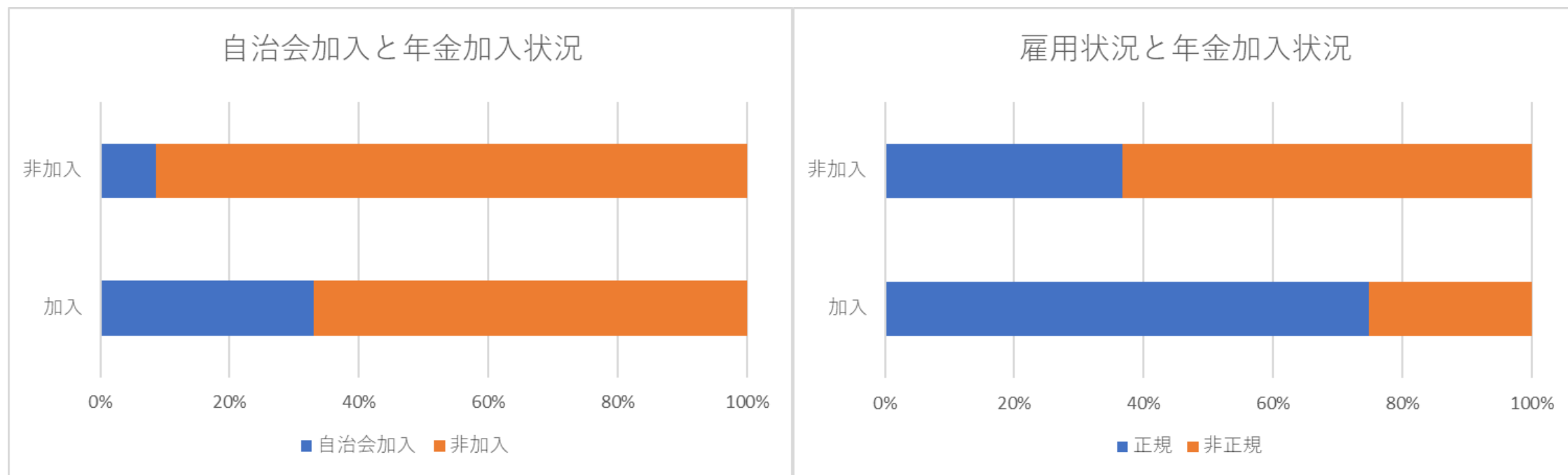


年金の分析②(クロス集計)



居住年数が伸びるほど、加入率は高くなる。
比較的収入が多いほど加入率は高くなる。

年金の分析②(クロス集計)



自治会加入者は非加入者よりも約20%高い。
非正規雇用よりも正規雇用の方約40%高い。

追加の分析内容

自治会に加入している人はどんな人か？

日本人住人との付き合いがある人はどんな人か？

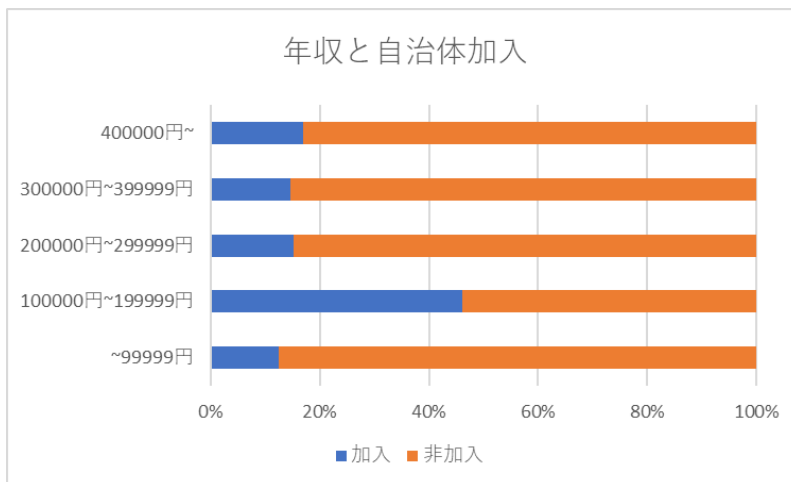
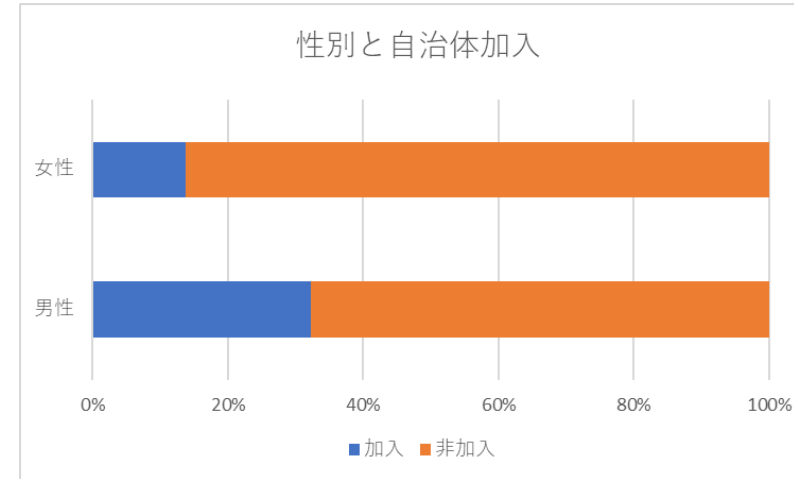
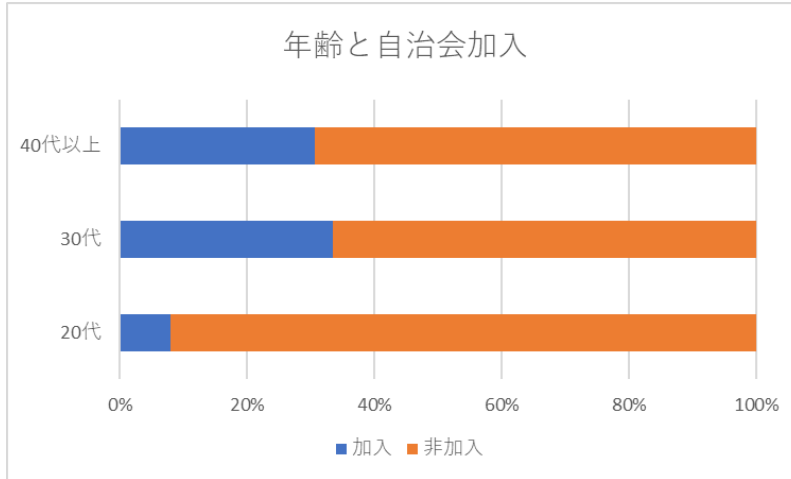


自治会の分析①(ロジスティック分析)

- Q24で近隣の自治会に「加入していない」人を0、「加入している人」を1としてロジスティクス分析を行った。
- 統計的に有意なものを抽出した表が右である。

変数	特徴	係数	P値
性別	男性	0.932	2.47E-06
年齢	30代	1.1114	8.00E-06
	40代以上	2.0828	5.67E-09
年収	100000円～199999円	0.6006	5.31E-02
	200000円～299999円	-0.879	1.28E-02
	300000円～399999円	-1.2937	2.38E-03
	400000円～	-1.1302	2.84E-02

自治会の分析②(クロス集計)



- ・ 20代よりも3,40代の方が加入率が約20%高い。
- ・ 男性の方が加入率が約20%高い。
- ・ 年収は100000円~200000円が他より30%程高い。

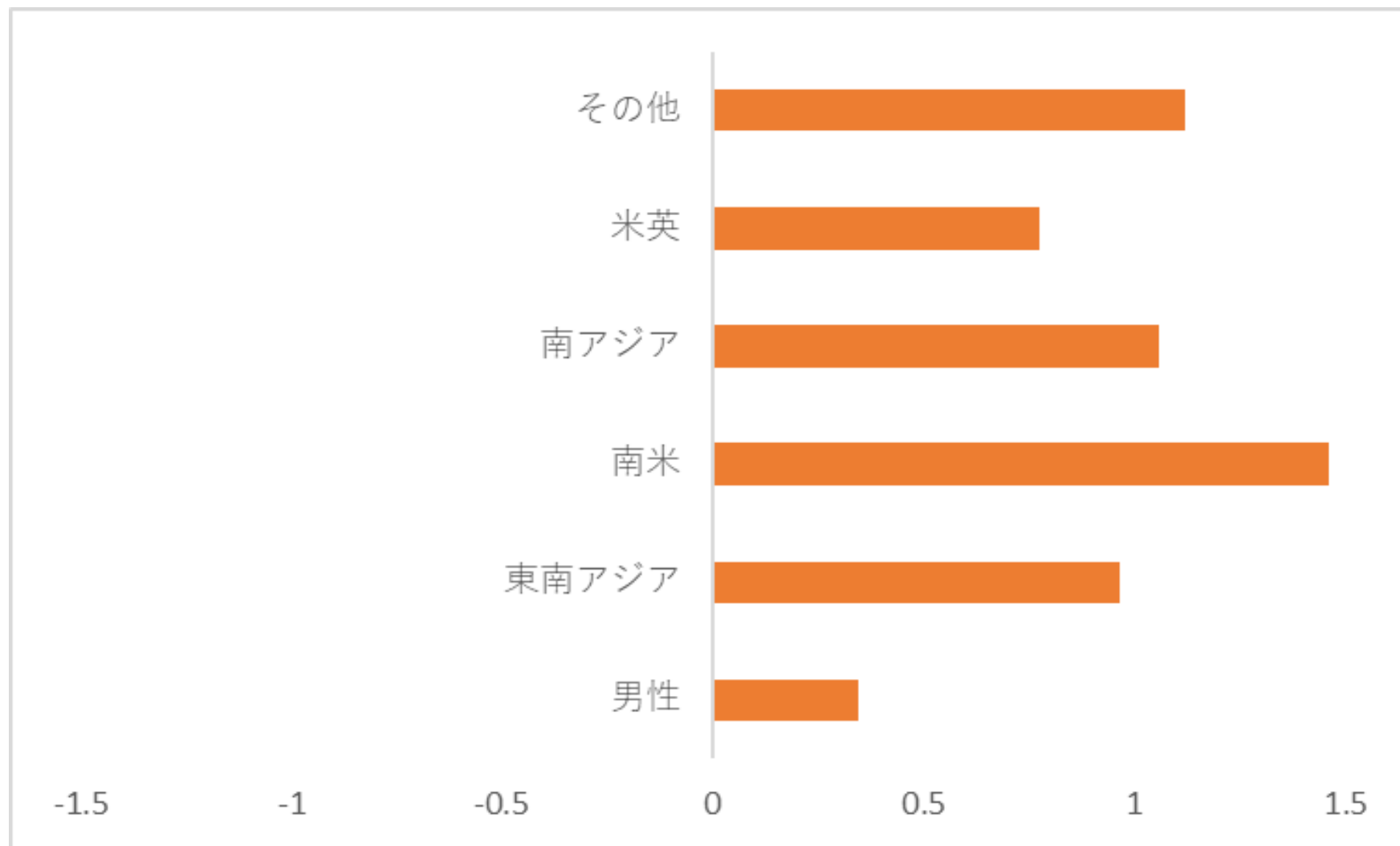
日本人付き合いの分析①

- Q24で日本人との「付き合いがある」に回答した人を0、「付き合いがない」を1としてロジスティック分析を行った。
- 統計的に有意なものを抽出した表が右である。

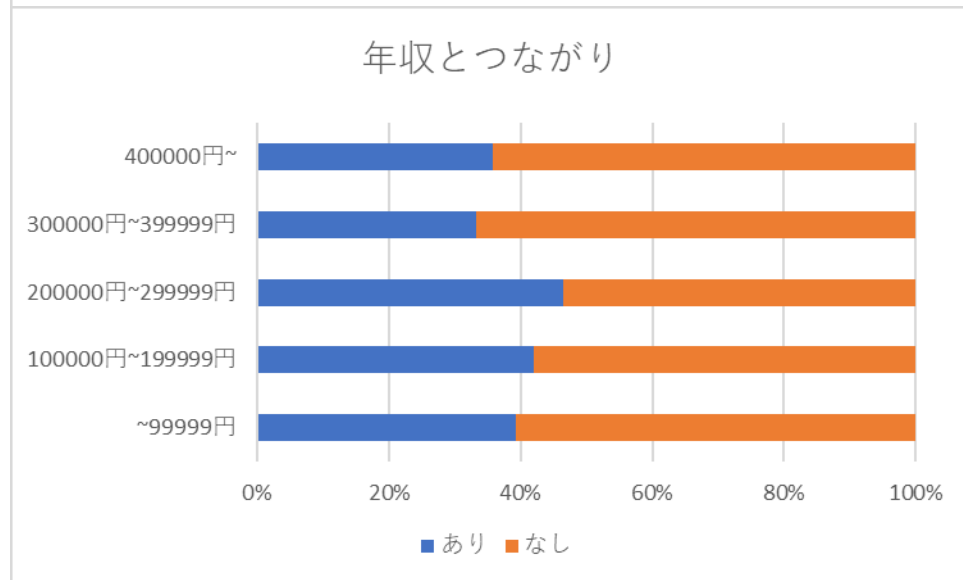
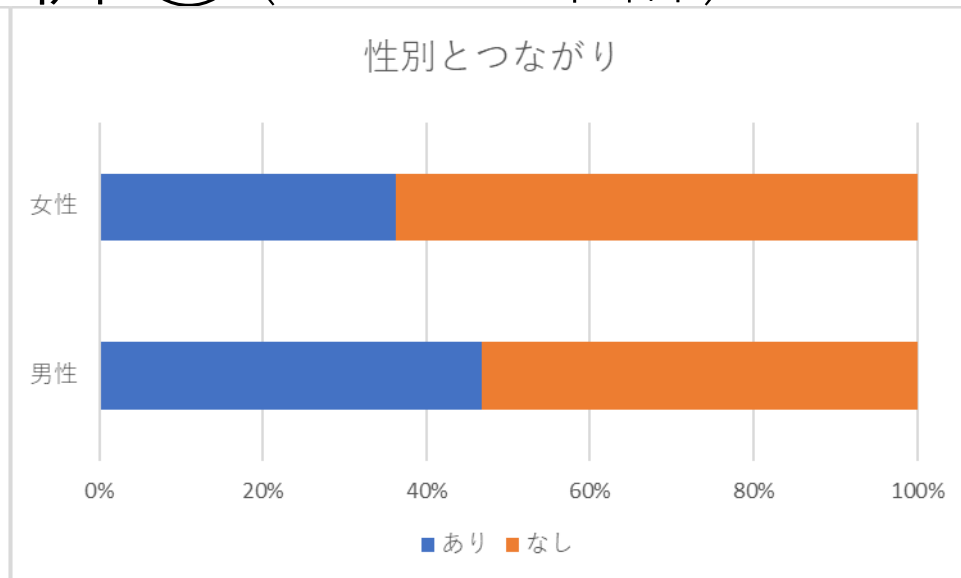
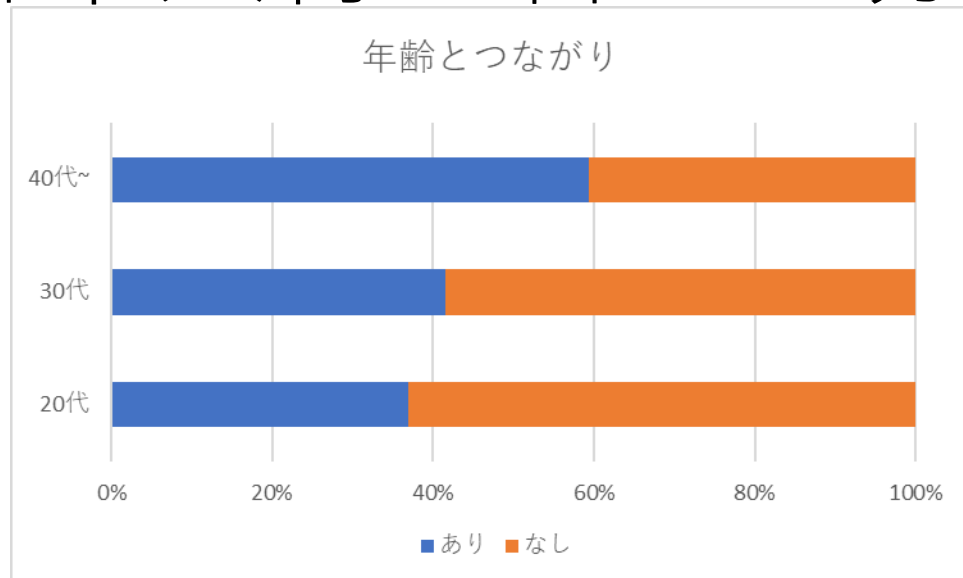
変数	特徴	係数	P値
性別	男性	0.3431	0.019024
国籍	東南アジア	0.965429	1.44E-08
	南米	1.46151	1.70E-08
	南アジア	1.058566	0.000231
	米英	0.774342	0.020973
	その他	1.122043	2.59E-05

日本人付き合いの分析①(ロジスティック分析)

回帰係数
(有意)



日本人付き合いの分析②(クロス集計)



年齢が高くなるほどつながりは大きい傾向にある。
女性より男性の方が10%ほど高い。

まとめ

日本語

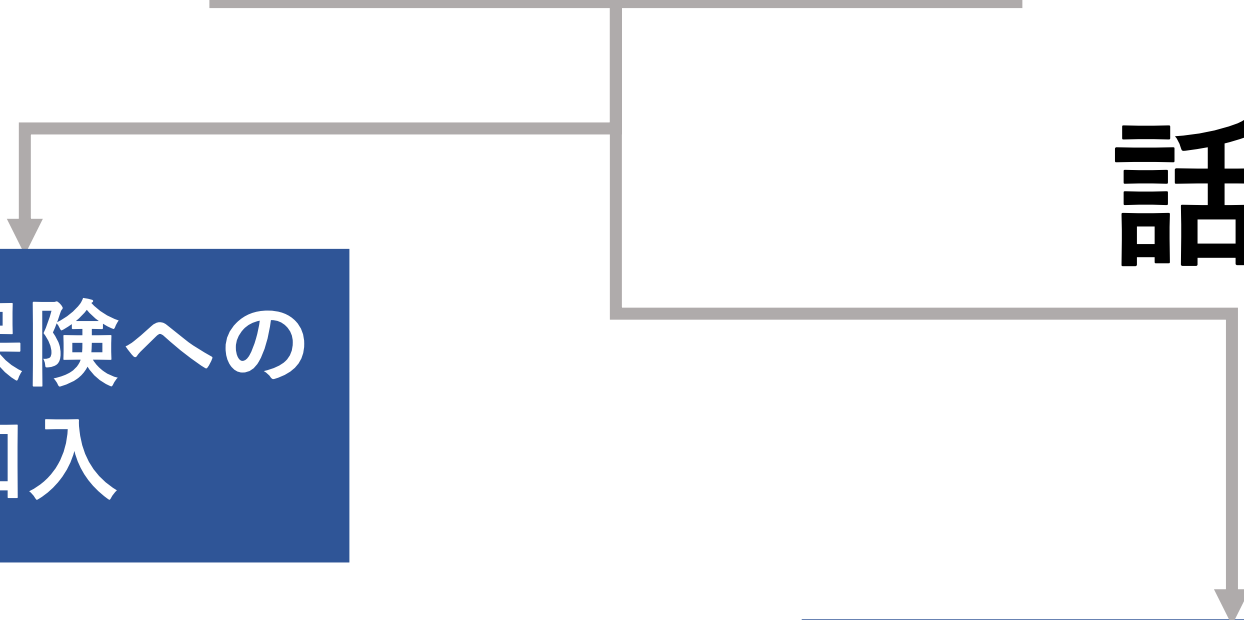
話せる

民間保険への
加入

コロナに
対する不安

話せない

災害への備えを
しない
(食料・飲料)



まとめ

人とのつながり

住民との
つきあいあり

なし

民間保険への
加入率減少

コロナに
対する不安

災害への備えを
しない
(食料・飲料)

まとめ②：年金

短い

居住年数

10年以上

低い

加入率が高い

分析による提案

在留外国人に対して
人とのつながりや日本語支援

適切な不安がリスク回避につ
ながるのではないかな？

二次分析を行うにあたり、
東京大学社会科学研究所附属社会調査・データ
アーカイブ研究センターSSJデータアーカイブか
ら「**在留外国人に関する調査，2020（寄託者：
サーベイリサーチセンター）**」の個票データの
提供を受けました。